

- 長野県千曲市立戸倉小学校で、過去に行われた講話をもとにして作成しました。

みなさん、おはようございます。今日は、いじめについて考える日です。

そこで、みなさんに「いじめ」についてのお話をします。

みなさんにたずねます。「いじめ」はよいことでしょうか？

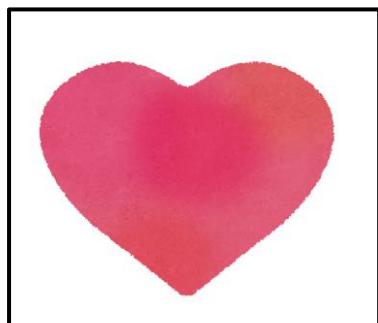
本当によいことだと思う人は、手をあげましょう。

(各学級で、まちがってあげている人がいたら、
担任が「本当にそう思っているの？」と確かめました。)



このようにたずねられると、「いじめ」がよくないことだということはわかっていますね。

さて「いじめ」にはどんないじめがあるのでしょう。まずは、それを考えてみましょう。

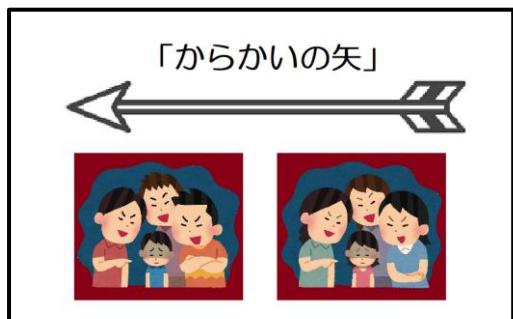


人には、それぞれ心があります。その心に矢のようにつきささるのが「いじめ」じゃないのかなと先生は思います。

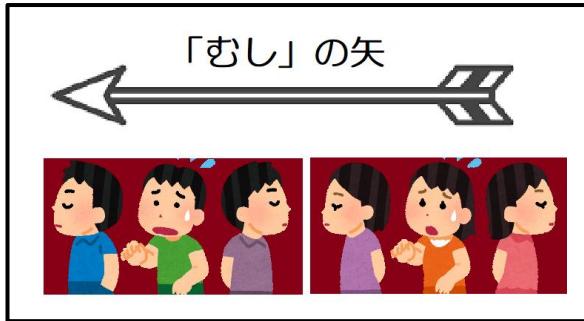
それでは今から、いじめの矢を心に突き刺していきましょう。



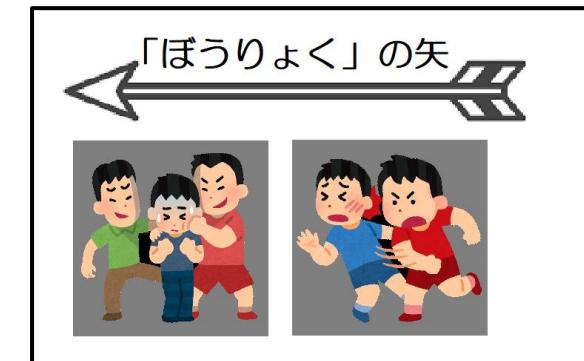
まず、1つ目は、「いやがらせ」の矢です。机やノートに落書きをしたり、人のものを勝手にとったり、壊したりすることです。



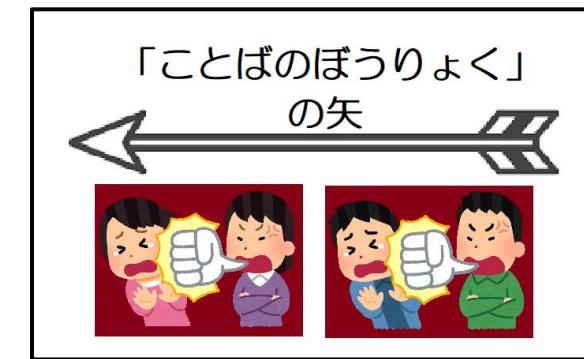
2つ目は、「からかい」の矢です。これは、失敗したり人と違っていたりすることを笑ったり、わざと真似をしたりすることです。



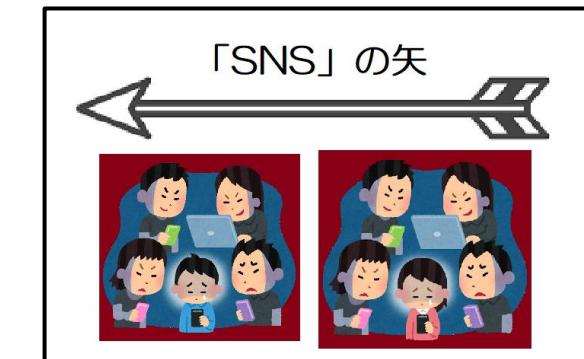
3つ目は、「無視」の矢です。この矢は、「ねえ ねえ、○○ちゃんとは、話すの止めよう」と言って、その人が来たら急、におしゃべりをやめることや、その人が来たら、みんなで逃げることや、一人ぼっちにすることなどです。



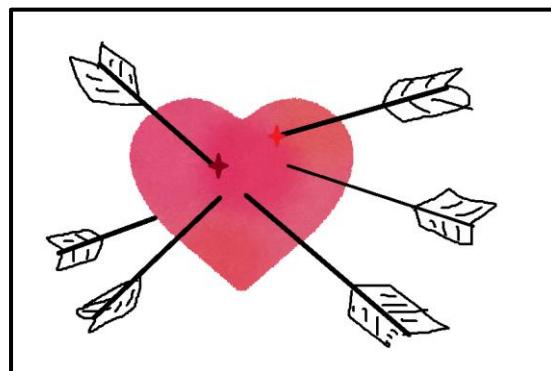
4つ目は、遊ぶふりをしてたたいたり蹴ったりする「暴力」の矢です。



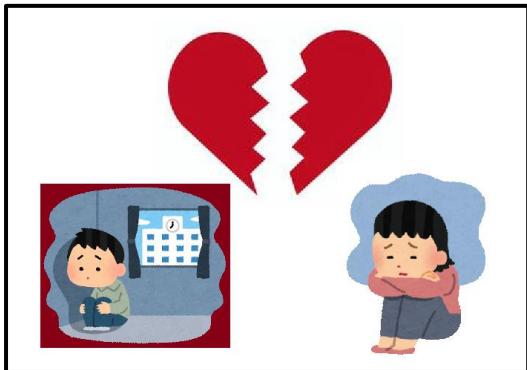
5つ目は、「死ね」・「よわむし」・「きもい」・「いいこぶってる」・「殺す」・「消えろ」などの悪口、つまり「言葉の暴力」の矢です。



6つ目は、スマホや携帯、ゲーム機などを使って、その人の悪口を書き込んだり、その人になりすましたり、勝手に写真や住所をのせたりする、「SNS」の矢です。



いじめられた人の心には、こんなふうにたくさんの矢が刺さっています。実際にはもっとたくさんの矢が刺さっているかもしれません。さて、この心はこれからどうなるのでしょうか。



このように、こころが引き裂かれたり、壊れたりしてしまうかもしれません。

その結果、死んでしまう人や、学校に来られなくなる人、家から出られなくなる人がいるのです。

だから、心が壊れてしまう前に、いじめの矢を抜かないといけません。

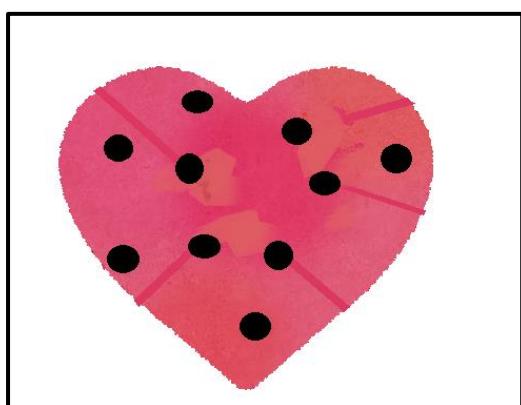
でも「いじめ」の矢は、いじめられている本人は抜くことができません。

どうやったら抜くことができるのでしょうか？

まわりの人気が、「一人じゃないよ」「一緒にいればいいよ」「大丈夫だよ、私がついているよ」「心配ないからね」などと声をかけることや、「味方だからね」と励ましてくれる人がいると、矢をぬくことができます。

いじめをした人が反省して「心からごめんなさい、もう二度としない」と謝ることもよいでしょう。そしていじめをやめさせるのです。

みなさんも、自分の周りにいじめの矢が刺さっているお友達がいたら、声をかけ、励まして、いじめの矢を抜いてあげてください。



ところで、いじめの矢が抜けた跡はどうなっていますか？穴のあとが残っています。全部抜いても「いじめ」の跡は残るので、消えないのです。

いじめの記憶は10年たっても、20年たっても、忘れるることはできません。

だから、いじめは絶対になくななければいけないのです。

いじめをしている人の多くは、実は「ふざけてやっていて、同じ事を自分がされても気にしなかったから、相手がそんなに嫌だったなんて思わなかった。いじめだとは思わなかった」と言うことがあります。

同じことを言ったりやったりしても、矢が刺さらない人もいる。ちょっとしか刺さらない人もいるし、グサグサ刺さる人もいる。自分はいじめているつもりでなくても、いじめになってしまふ。相手の気持ちを考えるということが、本当に大切なことです。

この後、どうすれば、いじめがなくなるのか、担任の先生と一緒に、一人一人が考えてみてください。そして、その結果を校長先生に教えてください。

これで、いじめについて考える日のお話を終わります。

最後までしっかり聞いてくれた人、ありがとう。